

役場庁舎建設事業の経過と現状を報告

4月27日、季の郷湯ら里で区長連絡協議会総会が行われ、終了後に平成28年度町政報告会を行いました。

目黒町長はあいさつで「ユネスコエコパークの理念を含んだ第七次只見町振興計画が始まり、区長各位の御協力を得ながら事業に取り組んでいきたい」と述べ、その後、今年度の事業や協力事項について担当課長より説明を行いました。

特に今回の報告事項の中で、各区長から、「役場庁舎建設事業」について説明の要望があり、報告会の中で下記の資料により説明しました。

◆役場庁舎建設事業の説明

庁舎建設事業は、平成27年度に計画した庁舎建設工事着工のため、昨年6月に1回目の入札を執行しました



▲区長連絡協議会

が設計額と入札額の価格差により不落となり、今年1月に再度の入札執行のための公告を行いました。入札参加者がなく不調となりました。

この現状と今日までの経過をお知らせするため、2月下旬に各振興センターを会場とした住民説明会を開催しましたが、庁舎建設が必要な実態については参加者の共通した認識であり、早急な整備を求める意見もありました。

町議会3月会議には、庁舎新築工事費14億円等の減額と同時に事業の継続と円滑な推進のため、現設計の見直しに着手するための設計委託料1,296万円（構造変更分含まない）増額の補正予算を提案しました。これは、平成27年度予算での工事発注は困難な状況であることから工事費等を減額し、併せて平成22年に地域計画審議会の答申を受けてから5年の歳月をかけての計画推進、1億1千万円余りの経費支出、プロポーザルやワークショップ等で設計に携わっていただいた専門家や関係者、多くの町民の関与を無駄にする

ことのないよう、現設計を見直して庁舎建設を進めることが、完成までの所要時間と経費面からも効率的との判断から設計委託料を増額したいとの考えによるものでした。

審議の結果、議員から設計委託料増額を認めない内容の修正動議が提出され6対5で可決となり設計委託料は予算化されませんでした。役場庁舎建設の目的（下記資料2「役場庁舎建設の目的」参照）に変わりはありませんので二日も早い庁舎建設を目指し努力してまいります。

また、庁舎建設の進捗状況がわからないなどのご意見もいただいておりますので、今後は随時の情報提供に努めていきます。



▲町政報告会で活発な意見交換がされました。

【(資料) 役場庁舎建設についての経過】

1. 現在の役場庁舎の状況

- ・現在の役場庁舎は昭和35年に建築され55年が経過し老朽化が進行。
- ・中越地震、中越沖地震後の平成20年に耐震診断を受けた結果は、震度6強以上で倒壊する危険があるCランク。

2. 役場庁舎建設の目的

- ・来庁する町民の方々や働く職員の安全を確保すること、少子高齢・過疎化の進行する中での「自然首都・只見」活性化の拠点施設を整備すること。
- また、平成23年新潟・福島豪雨災害での被災経験をふまえ町民の安心安全のための防災拠点としての施設を整備したい。

3. 現在までの経過

◎平成22年

- ・12月、地域計画審議会から「同一敷地内に庁舎を新築する」旨の答申。

◎平成23年

- ・3月11日、東日本大震災が発生。
町議会3月会議において庁舎建設基本計画策定業務委託の予算可決。
- ・7月、地域計画について町政報告会開催、29日新潟・福島豪雨災害が発生し、防災拠点の必要性を改めて強く認識。
- ・12月、庁舎建設基本計画の町政報告会開催、基本計画完成。



▲庁舎イメージ

◎平成24年

- ・7月、町議会で庁舎建設基本設計委託の予算可決、その後プロポーザルによる設計業者選定に着手。(この時点では只見振興センターを合築する案)
- ・10月、庁舎建設に係る住民説明会開催。
- ・11月、応募34者の1次審査(書類審査)を行い、20者を選定。
- ・12月、プロポーザルの2次審査は住民委員参加で行い、1次審査後の提案書を役場にて一般公開、意見募集後、2次審査会を開催し5者を選定。

◎平成25年

- ・2月、住民公開による第3次審査会開催、最優秀者にアーキプロを選出、3月に基本設計委託契約締結。
- ・4月、議会全員協議会で基本設計案をアーキプロから説明。(以後、平成26年5月までに住民ワークショップなどを延べ18回開催)
- ・8月、只見地区6団体から、役場と振興センターそれぞれの単独建設の要望書が提出され、9月の町議会において採択。要望採択を受け、それぞれ単独での建設方針を確認。

◎平成26年

- ・1月、議会全員協議会において基本設計案を設計者から説明。
- ・2月、議会から「新庁舎基本設計に関する意見書」が提出された。その後町は、議会全員協議会で庁舎暫定移転は行わず新庁舎建設に取り組む方針を説明。
- ・4月及び5月、議会全員協議会で基本設計の概要説明。
- ・6月、基本設計完了。
- ・8月、町議会で庁舎建設実施設計予算可決、その後実施設計委託契約締結。
- ・10月、議会全員協議会で実施設計説明。
- ・12月、各振興センターで住民説明会開催、議会全員協議会で実施設計説明。

◎平成27年

- ・3月、町議会において庁舎新築工事予算可決。
- ・6月、議会全員協議会で実施設計説明。
- ・6月、入札執行、不落となった。議会全員協議会において不落の報告、説明。
- ・8月、議会全員協議会において不落原因と今後の対策について設計者から説明。
- ・9月、町議会から「新庁舎建設に関する申し入れ」があり、10月2日に回答。
- ・11月、議会全員協議会で設計見直しの内容説明。
- ・12月、議会全員協議会で庁舎建設全体事業計画及び予算計画説明。

◎平成28年

- ・1月20日、総務厚生、経済文教常任委員会において町産木材使用経費試算などの説明。
- ・1月22日、庁舎建設工事の条件付一般競争入札を公告。
- ・2月5日、入札参加申請がなく不調となる。
- ・2月19日、議会全員協議会で入札参加申請がなく不調となった旨を報告。
- ・2月23日、只見振興センターにて住民説明会を開催(参加者49名)。
- ・2月25日、明和振興センターにて住民説明会を開催(参加者36名)。
- ・2月26日、朝日振興センターにて住民説明会を開催(参加者24名)。
- ・3月、議会3月会議において、庁舎建設費14億円などの減額と併せて現設計を見直すための設計委託料1,296万円の増額補正予算を提案したが、このうち設計委託料増額を認めない内容の修正動議が提出され可決。

只見線復旧復興の決議文を採択

平成23年7月の新潟・福島豪雨災害で被災し、只見駅から会津川口駅区間が不通となっているJR只見線の全線復旧を求め、「JR只見線の復旧及び復興を支援する会」の主催で、只見町民の集いが4月23日に季の郷湯ら里で開かれました。当日は、金山町や新潟県魚沼市の住民を含め約400名が参加されました。会長の目黒彰一さんは「地域住民や沿線町村との連携を深め、早期復旧につなげたい」と述べ、目黒町長は「只見線は日本一のローカル線であり、地域振興の要である」と一日も早い復旧を呼びかけました。

また、「日本の宝である只見線の、一日も早い全線復旧を目指し、全国に広く支援を呼びかける」などが盛り込まれた決議文を、幹事の菅家二千六さん、只見小6年生の目黒巧馬さん、朝日小6年生の目黒希さん、明和小6年生の宇野心晴さん、只見中3年生の赤塚莉子さん、只見高2年生の大石千浩さんの6人が読み上げ、来場者の大きな拍手により満場一致で採択されました。鉄道風景画家の松本忠さんによる記念講演会では「JR只見線の復旧について、メリットは多くあるがデメリットは無い」と、只見線の魅力や活用などについて講演いただきました。

集いの最後には「鉄道を中心とした地域づくり」をテーマにパネルディスカッションが行われました。立教大学講師の清水慎一先生（奥会津トータルアドバイザー）をコーディネーターに、町内からは三瓶やえさん（さんべ農園）、菅家大和さん（町商工会青年部長）、酒井治子さん（町観光まちづくり協会事務局）と金山町の坂内譲さん（金山町観光物産協会会長）がパネリストとして、それぞれの立場から只見線や地域づくりについて意見を述べていただきました。参加された大勢の町民からは、大きな拍手で只見線の早期復旧復興を願ひ、集いが終了しました。

力や活用などについて講演いただきました。



▲決議文を読み上げる6名



▲パネルディスカッションの様子

福島県知事 代理
大谷 英明
南会津地方振興局長



「JR只見線全線開通の為に、福島県でも全力でサポートします。」

小熊 慎司
衆議院議員



「地域の生活観光路線である只見線の1日も早い開通を目指したい。」

菅家 一郎
衆議院議員



「国で只見線に支援できるように、法律を変えていきます。」

皆川 雄二
新潟県議会議員



「地域住民の利便性向上の為に、小出行き始発を太白川駅から只見駅にしていきたいと考えています。」

星 公正
福島県議会議員



「東日本大震災により只見線の復旧が影に隠れていたが、今は県知事を中心に復旧事業を進めています。」

大平 悦子
新潟県魚沼市長



「只見線を活用した事業を展開する為に、早急な全線開通を望みます。」

長谷川 盛雄
福島県金山町長



「只見線は地域住民の生活交通であり、全国の鉄道ファンには宝です。」

山村教育留学生第15期生
対面式で将来の夢や目標を語る

4月8日、今年度で第15期生となる只見町山村教育留学生（町外から県立只見高等学校へ入学した生徒）と、町内関係者との対面式が只見振興センターにて行われました。今年度は県内をはじめ栃木県や埼玉県、千葉県や神奈川県など県外も合わせて14名の生徒が只見町山村教育留学生となりました。

対面式では、町長や教育長などから歓迎のあいさつの後、生徒一人ひとり「野球部に入って甲子園を目指したい」「将来、人の役に立つ仕事に就くために勉強したい」など、しっかりとした夢や目標を自己紹介の中で発表しました。



▲山村教育留学生第15期生14名

ユネスコエコパーク関連事業
体験の森決定と野村総研からの支援

昨年10月に、町のユネスコエコパーク関連事業として、豪雪地帯に適応した森林管理技術の開発と普及・体験を図ることを目的とした「ただみ豪雪林業体験・観察の森」（体験の森）の候補地を募集し、黒谷区の小沼昇さんの所有するスギ人工林に決定しました。

この事業について、(株)野村総合研究所から資金の支援が決定し、4月6日に目黒町長が野村総合研究所本社へ御礼の挨拶に訪問しました。今後、体験の森では整備が行われ、林業のモデルや環境教育・レクリエーションの場として活用することが計画されています。



▲目黒町長(右)から野村総合研究所の横山常務執行役員(左)へ感謝状を手渡しました

国道289号八十里越
只見町・三条市連携戦略会議の設置

国道289号八十里越道路の完成を見据え、只見町と三条市で「第6回八十里越道路暫定の活用検討懇談会」が4月26日、季の郷湯ら里を会場に開かれ、約40名が出席されました。懇談会では、整備が進められている国道289号が完成した際の連携を見据え、経済や観光、医療や教育などの政策を推進するために、「三条市・只見町連携戦略会議」を設置することを確認しました。

また、只見町ブナセンター運営委員会長の角田勇さんによる「八十里越」に関する講演会の他、今年度も工事区間を活用した視察ツアーや国道289号フルコース踏破などの暫定活用イベント案も互いに提案されました。



▲連携戦略会議設置が確認されました

小林早乙女保存会
第9回「地域文化功労者」表彰

会津ユネスコ協会が主催する第9回「地域文化功労者」表彰式が4月19日、会津若松市内にあるホテルいづみやにて行われ、只見町小林地区の「小林早乙女保存会」が受賞しました。

今回の選定理由として、小林早乙女保存会は、明和小学校で踊りや太鼓など後継者育成の活動、400年以上続く伝統の継承、地域文化の振興に功績があつたとして選ばれました。

会長の角田勝昭さんは、「保存会に関わった全員の努力が評価された」として、今後も保存会による地域活動がんばっていききたいと話されました。



▲表彰状と盾を持つ会長の角田勝昭さん

春季消防検閲式

4月24日、明和小学校グラウンドを会場に春季消防検閲式が行われ、消防団員、婦人消防隊あわせて約200名が参加しました。

検閲官の検閲宣言がされた後、通常点検や機械器具点検、消火訓練などが行われ、団員は日頃の訓練の成果を発揮し、規律ある動作を披露しました。また、各種表彰も行われ、団員の長年の功績を称えました。表彰受賞者は次のとおりです。

(敬称略)



▲規律ある行動を披露した婦人消防隊



▲日頃の成果を披露した消火訓練

■福島県消防協会南会津支部長表彰

▽功績章Ⅱ 山内孝志、渡部仁一、馬場勇、目黒康弘

▽優良章Ⅱ 馬場充、三瓶晃、目黒克輝、小沼孝典、吉津和樹、馬場達也、酒井文高、目黒健太、馬場由人、山内明、小林吉男、梁取東、三瓶錬、三瓶節

▽勤続章Ⅱ 鈴木克英、鈴木僚、長谷部孝男

■只見町消防団長表彰

▽優良章Ⅱ 藤田久幸、馬場直幸、伏見正寛

▽精積章Ⅱ 鈴木淳、鈴木靖和、堀金瞬、本名修、舟木晋太郎

消防団長辞令交付式

4月1日、役場町長室で新消防団長の辞令交付式が行われました。新しい団長に目黒邦友(59) 訓練分団長が就任し、鈴木好行前団長(59)は、平成22年4月1日から6年間に在職し、3月31日で退任されました。

目黒町長は、「町の防災の為に、リーダーシップを発揮してほしい」と挨拶を述べました。

団長に就いた目黒邦友さんは、「前団長の思いを引き継いで、消火活動や水害などへの対応、そして予消防にも力を入れたい」と抱負を述べられました。



▲目黒吉久町長(中)から辞令を受けた目黒邦友さん(左)と前団長の鈴木好行さん(右)。

只見町納税貯蓄組合連合会総会

4月15日、明和振興センターを会場に、平成28年度只見町納税貯蓄組合連合会総会が開催され、23名の組合長が出席しました。

総会の中で、概ね10年にわたって組合長を務めた、九々生納税貯蓄組合長の矢沢英也さんと、布沢第一納税貯蓄組合長の齋藤政信さんが永年組合長として表彰されました。

組合による日頃の地道な活動が只見町の納税意識の向上を推進し、滞納の無い町づくりが図られています。

現在28の組合があり、新規加入者を募集しております。滞納を防ぎ、地域間の交流も図れるため、積極的な加入を呼びかけています。



▲栗木会長から表彰状を受けとる齋藤政信さん

4月21日正午再開通
国道252号再開通イベント

4月21日正午に国道252号六十里越え道路が再開通し、これを祝して4月29日に新潟県魚沼市「道の駅いりひろせ」で再開通イベントが行われました。

再開通イベントには只見町、魚沼市の関係者などが約25名が参加し、雪わり街道を愛する会の目黒長一郎会長は「浅雪により過去20年では一番早い開通となり、ゴールデンウィークに大きな効果をもたらす」と述べられ、目黒町長は「国道252号と並走するJR只見線は、魚沼市と共に連携しながら地域振興を進めていきたい」と挨拶しました。

国道252号は、ゴールデンウィーク前に再開通することを課題とし、地域振興に大きく期待する声が寄せられました。



▲当日は雨により、道の駅構内でテープカットが行われました。

叶津・亀岡集会所
竣工祝賀会を開催

叶津集会所と亀岡集会所の竣工（平成28年1月13日）を記念して、それぞれ祝賀会が開催されました。

叶津集会所は、平成23年7月の新潟・福島豪雨災害により流失し、新しい集会所となりました。

また、亀岡集会所は、老朽化により利便性が悪い為、区の要望により亀岡サッカー場付近へ新しく建築されました。

祝賀会は、新しく完成した集会所で区民や関係者が集い、盛大に行われました。



▼亀岡集会所の外観

▲叶津集会所の外観

只見町固定資産評価審査委員
委員に舟木氏と本名氏が任命

4月21日、役場本庁の町長室において、舟木和一さん（小林）と本名保美さん（黒谷）に、目黒町長から只見町固定資産評価審査委員の辞令書が交付されました。両名は再任となり、任期は平成28年4月1日から平成31年3月31日までの3年間となります。

審査委員会は全体で3名体制で、現任の菅家三雄さん（只見）の任期は平成29年9月30日となります。



▲辞令書もらった舟木さん(右)と本名さん(左)

叙勲伝達式
故新國卓さんに旭日章

元町議会議員の故新國卓さんへ旭日章の伝達式が、4月22日に役場町長室で行われ、目黒町長から長男の真也さんへ位記、勲記などが手渡されました。

故新國卓さんは、町議会議員として通算4期16年間在職されるなど町の発展と振興に尽くされました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



▲勲記を持つ長男 真也さん

只見町議会議長
副議長の選任

平成28年4月20日開催の只見町議会4月会議において、新しい議長と副議長が選出されました。



議長
齋藤 邦夫
5期 74歳



副議長
酒井 右一
3期 66歳